

東京都立埋蔵文化財調査センター
令和7年度企画展示

Unearthing Modern Tokyo

トキョーの歴史

An Introduction to
the Archaeology of
the Capital's Recent Past



アラマー
トモモダン
ダワ



遺跡や遺物って、
縄文・弥生みたいな
遠い過去のものだけ？
いいえ、
たとえ1000年前
だって、
土の中にしか
残っていない歴史が
たくさんあります。
私たちが住む
このトーキョーの
生い立ちだって、
土の中から見てみると
今までとは少し違った
姿を見せてくれます。

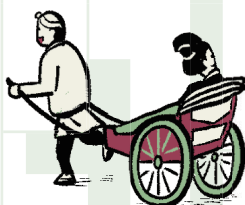
いざ会いに行かう

若き日のトーキョー!

When you think of archaeology, do ancient civilizations and thousand-year-old artifacts come to mind? Archaeological discoveries aren't just about the distant past. Even objects from a century ago tell fascinating stories beneath the soil. Through archaeological findings from the late 19th century onward, we'll explore how Tokyo grew into the metropolis we know today. Come join us on an exciting journey to uncover the young Tokyo of the past!

見逃ス
勿シ!

新橋停車場



この冊子は、東京都立埋蔵文化財調査センター令和7年度企画展示『土の中のトーキョー』近代考古学事始の解説冊子として作成しました。

この企画展示は、東京都教育委員会・台東区教育委員会・豊島区教育委員会・北区教育委員会の協力により開催しています。

本冊子で取り上げた遺物は各教育委員会が所蔵しています。



◎ 目次

プロローグ	2
トーキョーの礎	5
鉄道	8
水道	10
煉瓦	12
トーキョーを襲った災禍	14
関東大震災	16
太平洋戦争	18
トーキョーの暮らし	20
都市・村落の暮らし	22
近代化	24
洋風食器の需要	26
宮家の暮らし	28
御雇い外国人の暮らし	30
エピローグ	32

◎ 展示概要

明治維新以降150年を経て、従来等閑視されがちだった「近代」についても考古学の対象として取り上げようとする機運が高まっています。首都として日本の近代化の中心であった東京には、興味深い近代の遺跡・遺物が数多く残されています。昭和100年の節目でもある今年度は、当センターが東京都内で発掘調査を行った成果を中心に、東京の近代化と現在のことになりました。

発掘調査によって土の中から現れたトーキョーを舞台に、いよいよ近代考古学を開幕いたします。

なぜ「トーキョー」？

東京都公文書館によると、明治時代の初め頃、「東京」の読み方には漢音の「トウケイ」と呉音の「トウキョウ」が並んで用いられていたようです。しかしやがて旧幕時代をしのぶ人々による「トウケイ」呼びが淘汰されていき、明治三十年代の国定教科書には「トーキョー」というフリガナが統一的に表記されました。この表記は、新しい時代の始まりを象徴しているのです。そこで、本展示では近代東京を「トーキョー」と表記し、現代の「東京」と呼び分けています。

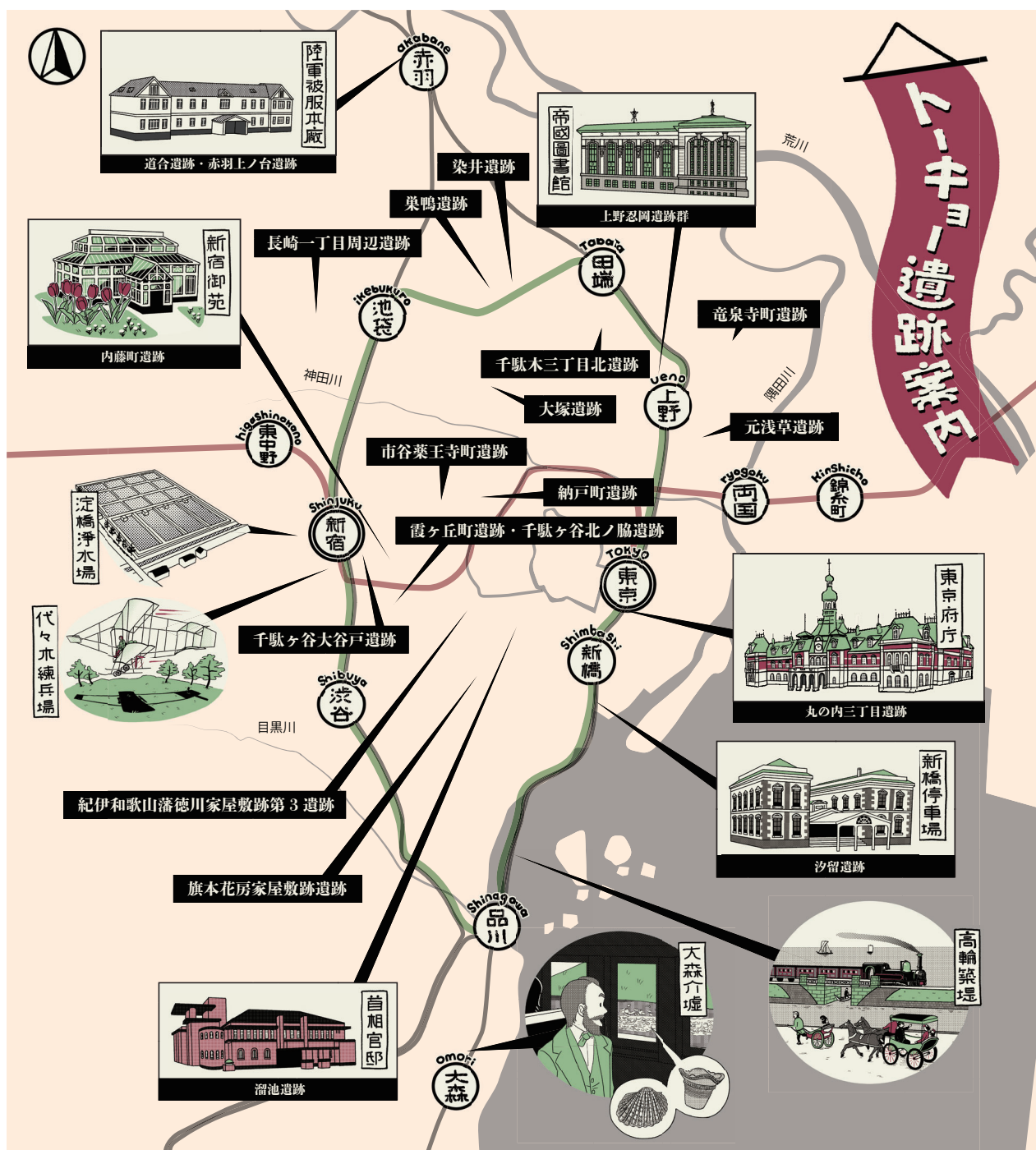
Prologue

Unearthing Modern Tokyo

During excavations of Edo-period sites in central Tokyo, remains from Japan's modern era were frequently discovered. This pattern emerged because the Meiji government took over many former samurai residential areas and built new public facilities, including government ministries and offices, on these lands. In fact, the excavation of modern-era sites began naturally alongside the work on Edo-period sites.

プロローグ

都 ^ど ^い ^{せき} 心部の江戸遺跡を調査するようになって以降、私 ^い ^{こう} たちは近代の遺跡・出土品にもしばしば遭遇 ^{そうぐう} することとなりました。なぜなら、江戸時代の武家地の多くは明治政府に接收 ^{せっしゃう} され、公的な施設が築かれていったから。近代遺跡を対象とした調査は、江戸遺跡の本格的な発掘開始と共に始まっていたのです。





Siodome site in Minato Ward, Tokyo.

In the Edo period (early modern period), it was home to the samurai residences of the Sendai domain and others. In the Meiji period(modern period), it became the site of Former Shimbashi Station, the first railway station in Japan. And today, it's where you'll find SIODOME SIOSITE!

◎汐留遺跡

この遺跡は、江戸時代には仙台藩などの大名屋敷が、明治時代には日本初の鉄道駅「新橋停車場」があった場所であり、現代は汐留シオサイトに代わってなっています。発掘調査では、新橋停車場の駅舎に加え、転車台や発電施設といった重要な施設跡や、それに関連する出土品など、近代の鉄道に関する数々の成果が得られました。その一部は東日本鉄道文化財団の鉄道歴史展示室でも活用されています。



発掘された転車台や車庫などの建物基礎

(東京都埋蔵文化財センター調査報告第37集より引用・加筆)



転車台の基礎



新橋停車場跡 プラットホーム



Naitocho site in Shinjuku Ward, Tokyo.

In the Edo period (early modern period, it was home to the samurai residences of the Takato domain. The extent of this site includes part of an imperial garden built in the Meiji period (modern period). And the garden is still in operation today as Shinjuku Gyoen National Garden.

◎内藤町遺跡
この遺跡には、江戸時代には高遠藩内藤家の下屋敷が、明治時代には政府の農事試験などを行った内藤新宿試験場（後に新宿植物御苑）があり、現代は「国民公園 新宿御苑」となっています。発掘調査では、イギリスの温室を模した近代温室の一部が見つかりました。熱帯植物を栽培する大温室は、大英帝国では南方地域の領有の象徴でもあり、わが国の帝国主義を語る上で重要な施設です。

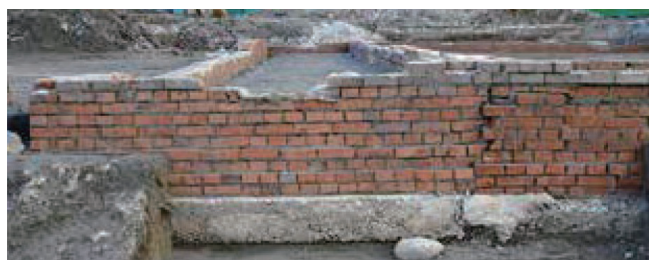


展示中の近代温室

発掘された近代温室の一部は、現在も新宿御苑内に保存展示されており、ご覧いただけます。



発掘された近代温室（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 246 集より引用・加筆）



発掘された府立第一高等女学校の建物の跡
（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 386 集より引用・加筆）

◎元浅草遺跡
この遺跡の場所には、江戸時代には出羽松山藩の大名屋敷、明治時代には東京府内の才媛が集ったという東京府高等女学校（後に府立第一高等女学校）があり、現代は都立白鷗高等学校となっています。発掘調査では、近代の校舎の建物基礎などが見つかり、江戸時代とは一線を画す近代的な教育の場の様相を語る資料が得られました。

Motoasakusa site in Taito Ward, Tokyo.

In the Edo period (early modern period), the site was home to the samurai residence of the Matsuyama domain. In the Meiji period(modern period), it became the location of the Tokyo Prefecture First High School for Girls. And today, it's where you'll find Tokyo Metropolitan Hakuou High School!

CHAPTER I

The Foundation of Tokyo:

Building the Modern City

The wave of change brought by the Meiji Restoration completely transformed Tokyo, incorporating advanced technologies from abroad.

Even today, it feels as if the fervor of that time still bubbles beneath the earth, like magma, waiting to be uncovered.

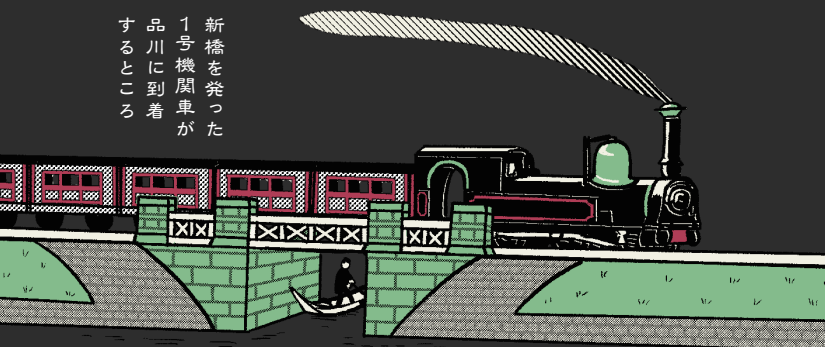
維新を成し遂げた時代の波は、諸外国の先進技術を取り込みながら、トーキョーの姿を一変させていきました。今でも、土の中には、当時の熱気がマグマのように横たわっているようです。

第1章

トーキョーの

礎

新橋を発った
1号機関車
品川に到着
するところ



Transportation

One of the defining features of modernization is the freedom of movement it brought to people.

This was made possible by the remarkable advancement of transportation.

Starting with the opening of Japan's first railway in 1872, horse-drawn trams, streetcars, and buses soon followed.

In just half a century, these new modes of transport came to cover the entire city, transforming urban mobility.

◎交通

近代化の大きな特徴の一つは人々の自由な移動。その背景には、交通機関の目覚ましい発達がありました。

1872年（明治5）の鉄道開通にはじまり、馬車鉄道、路面電車、乗合バスなどが次々に登場、わずか半世紀の間に、街中を隈なく網羅していったのです。

形態	明治	大正	至現代	関連遺跡
 鉄道	1872 新橋 - 横浜間に日本初の鉄道開通			汐留遺跡 （「新橋停車場」跡） 
 馬車鉄道	1880 新橋 - 日本橋間に「東京馬車鉄道」開通	1899 「東京馬車鉄道」が電化し「東京電車鉄道」となる		
 電車鉄道			1911 東京市電気局発足「東京市電」となる 1943 東京都制施行「都電」となる	大塚遺跡 （市電・市バス・都バスの車庫や営業所）
 バス			1923 関東大震災を契機に都バス拡充	

鉄道

初期の鉄道レール

汐留遺跡（新橋停車場跡）からは、下の画像のような細長い形の鉄製品が出土しています。形状や刻印から、これらは初期の鉄道レールであることが判明しました。断面の形がとなるものは「双頭レール」、となるものは「平底レール」と呼ばれます。

最初期は

双頭レールだった

わが国に初めて鉄道が導入された際に用いられていたのは双頭レールでしたが、まもなくして平底レールが用いられるようになります。鉄道黎明期の短い期間にだけ使われていた双頭レールは、鉄道の歴史を語る上でとても貴重な資料なのです。



平底レール

現代と同様、「犬釘^{いぬくぎ}」を用いて枕木に固定するレールです、チェアーは必要ありません。

写真中央のレールは片側がそぎ落とされるように作られており、鉄道の分岐部に敷かれていたものと考えられます。

双頭レール（上写真左端）とチェアー（下写真）

19世紀にイギリスで考案され、頭部が摩耗した際に上下を逆さまにすることで繰り返し使える設計として、日本の鉄道黎明期にも輸入・使用されました。しかし、枕木に固定するには「チェアー」とよばれる台座が大量に必要でした。



チェアーによる双頭レールの固定方法の再現

耳の垂れた犬に似た形なので「犬釘」

CAMMELL SHEFFIELD TOUGHENED RAILWAY 1887 SEC131.I.R.J

銘 “CAMMELL SHEFFIELD TOUGHENE □ □ □ EEL.W.1887 SEC131.I.R.J”



銘 “DARLINGTON IRON CO □ IGJR”

レールの刻印

レールの側面には英字でイギリスの製造会社の名前が刻印されています。わが国の鉄道が当初はイギリスからの輸入品で導入されたことを示す物的証拠のひとつです。

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）



「鐵作新橋／明三十九」銘

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）



「1905
M.A.R.C.&W.Co.LD.
SALTLEY WORKS.
I.G.R.

[B]IRMINGHAM
[E]NGLAND」銘

※[]内推定

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）

列車の部品
軸箱は車軸と台車をつなぐ部品です。その蓋の銘版が出土しており、書かれている銘からは右がイギリス製、左が国産の蓋であることが分かります。



笛

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）



チッキ（荷札）

「下渋谷 1726」銘

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）

駅務に使われた道具
汐留遺跡からは駅務の道具も出土しています。チッキは荷物に付ける札。笛は駅員が携帯していたものと思われる。



切符
乗客の使用した切符も出土しました。黒く焦げていますが、赤外線写真の画像から、利用区間や座席の等級が分かります。

上写真「新橋ヨリ横浜迄 第三等」

下写真「神奈川ヨリ新橋迄 第三等」

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）



「駅弁」関連の出土品（汐留遺跡から出土した汽車土瓶と坏）

汽車土瓶は駅弁等と共に売られたお茶の販売容器です。目に楽しい絵付けに加えて、「はま松」や「国府」といった地名が書かれているものや、益子焼、信楽焼などの地方のやきものもあります。各地で売られていた「ご当地汽車土瓶」といったところでしょうか。

これらはすべて新橋停車場跡から出土しました。列車内に置き去りにされたものを廃棄したのでしょう。すでに当時のトキョーが広域な鉄道網で各地と結ばれていたことを示す出土品なのです。

（港区汐留遺跡 / 東京都教育委員会蔵）

馬車鉄道

1880年(明治13年)、新橋停車場(日本橋間に「東京馬車鉄道」が開業しました。遺跡内では、厩舎の跡や馬の飼育に係る品々が発見されています。当時は乗合い馬車や荷馬車なども往来し、初期のトキーヨーでは、文字通り「馬力」が主力だったようです。



市内を走る馬車鉄道 (個人蔵)



蹄鉄

馬のひづめを保護し、摩耗や損傷を防ぐために装着される鉄製の道具です。日本国内では明治時代以降に西洋技術とともに広まりました。

港区汐留遺跡 (東京都教育委員会蔵)



ブラシ

馬の毛並みを整えるためのブラシも出土しています。右のブラシの背面には「六三四厩」の刻書が、左のブラシには「60/東京馬車鉄道株式会社」の焼印が認められます。

港区汐留遺跡 (東京都教育委員会蔵)

墨書木札

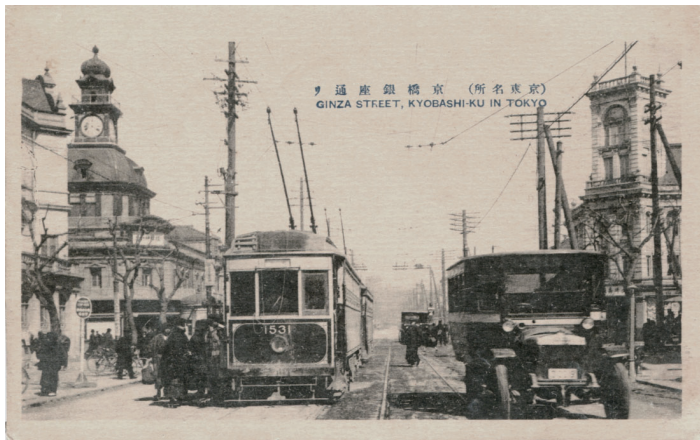
右「二、一一〇 / 花鞍」

中「二、九七二 / 高響」

左「厩用」

これらの木札には馬の飼育に関すると思われる文字が書かれています。右と中央は馬の名前でしょうか? 左の木札は馬を飼育する厩舎





市電 (左) と市バス (右) (個人蔵)

市電と市バス

(市営乗合自動車)

1899年(明治32)に「東京馬車鉄道」が電化して「東京電車鉄道」となり、トキヨーにも電化の波が及びます。1911年(明治44)には、東京市が電気局が私鉄3社を買収し、以降、公共交通機関として発展しました。

また、1923年(大正12)の関東大震災の復興が大きな契機となって、一気にバスが普及しました。



王子電気軌道株式会社の停留所看板

明治44(1911)年に開業した路面電車会社です。その事業は昭和17(1942)年に東京市電気局に引き継がれ、一部は現在の東京さくらトラム(都電荒川線)として利用されています。

文京区大塚遺跡(東京都教育委員会蔵)



東京市営自動車の停留所看板

東京市営自動車は、大正12(1923)年に営業を開始した市営バスです。路面電車を補完する交通機関として、市民の移動を支え、都市交通の発展に貢献しました。

文京区大塚遺跡(東京都教育委員会蔵)

市電・市バスの車庫

文京区の大塚遺跡には、都バスの大塚営業所がありました。

1912年(大正元)東京市電の車庫として利用が始まり、1928年(昭和3)に市バスの営業所・車庫に変更されました。発掘調査では管理所や車庫の跡が調査され、関連の出土品も数多く見つかっています。



大塚遺跡で見つかった
営業所の建物基礎

Access to safe water is one of the most essential requirements for human survival.

Even in Edo, the predecessor of modern Tokyo, a water supply system had been developed. However, repeated outbreaks of cholera highlighted the need for a safer and more modern water infrastructure.

In 1898, the introduction of a pressurized water supply system using pumps at Yodobashi Josui-jo (Yodobashi Water Purification Plant) marked a major turning point. By the late Meiji period (early 1910s), a comprehensive waterworks network had been established, covering the entire city.

◎上水網の整備

人が生きていく上で最も重要なのは安全な水の確保。江戸の町にも上水は整備されていたが、度々起こったコレラの大流行などを契機に、より安全な上下水整備への関心が高まってきました。

1898年（明治31）年以降、市域を網羅する近代上水道網が整備されていきました。また、埋設された下水用の土管も見つかっています。



江戸時代の上水木管（汐留遺跡）

江戸の街中は木樋を使った水道管が使われていました。途中に設けられた上水井戸から水を汲み上げて利用しています。（東京都教育委員会提供）

上水鉄管

ポンプを用いた近代的な給水を行うためには、木樋に代わって鉄管が必要となりました。水道管敷設初期の「明治三二」（1899）銘をはじめ、「大正二」（1913）銘など様々な時期の鉄管が見つかっています。年号の前の★マークは東京市（都）の紋章です。



トーキョーの街に最初に敷かれた水道管はベルギー製でした。上の写真左側の上水管には、漢字で発注年（下写真左）と製造会社（下写真右）の刻印が記されています。



「★大正二」の銘



「★明治三二」銘



「CIS GLE LIEGE」（リエージュ市水道鉄管会社）銘



発掘調査で見つかった下水土管

レンガで構築された集水桝と、それに接続する土管の列
(新宿区内藤町遺跡 / 東京都教育委員会提供)

下水道の整備

1884年(明治17)には、神田周辺に近代式下水道もつくられますが、ごく一部の地域のみに限られており、土管で作られた簡易的な排水路が数多く発見されています。
公共の下水道が広く普及するようになったのは、戦後のことでした。



神田下水

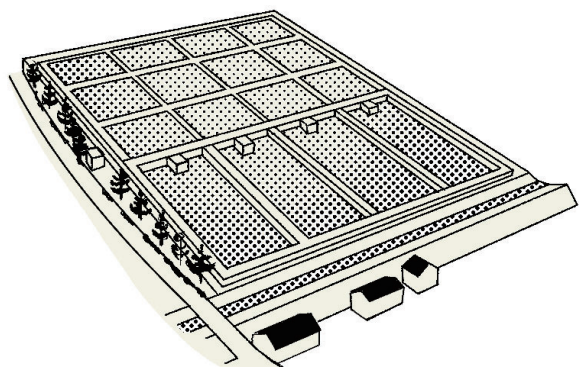
明治17(1884)年に完成した日本初の近代的な下水道です。レンガ造りの暗渠により汚水や雨水を排水し、伝染病の予防や市街地の衛生環境改善に大きく貢献しました。近代東京の下水道整備の原点となった施設です。



遺跡から出土した土管

建物内の排水場所からの流れ出た下水は土管を通して敷地外に排出されました。土管同士を接続する受部は当初丸みを帯びていますが、やがて角ばった形状に変化する傾向が見受けられます。

(左：港区汐留遺跡 右：新宿区内藤町遺跡 / 東京都教育委員会蔵)



淀橋浄水場

淀橋浄水場は、明治31(1898)年に給水を開始した近代浄水施設です。玉川上水から取り入れた水を浄化し、安全な飲み水を市内に供給しました。衛生環境の向上と都市の発展を支える重要な役割を果たしました。昭和40(1965)年にその役目を終え、現在は新宿副都心をはじめとする都市空間へと姿を変えています。近代東京の成長を水道事業の面から支えた歴史を伝える貴重な遺産として知られています。

Bricks

Following the Great Ginza Fire of 1872, efforts were made to improve fire resistance in building construction in Tokyo, and bricks were increasingly used for major buildings and infrastructure projects. To meet this substantial demand, many brick factories operated throughout the Tokyo region.

◎レンガ

1872年（明治5）の銀座大火以降、都市の不燃化を目指して、規模の大きな建物や土木工事にはレンガが盛んに用いられるようになりました。その膨大な需要に対応するため、トーキョー周辺にはレンガ工場も多く操業していました。



機械成形

機械で押し出した粘土塊をピアノ線で切り分けて作ります。ピアノ線で粘土を切断したチリメン状の皺の痕跡が上下面に残るのが特徴です。



手抜き成形

手作業で一つ一つ型枠に粘土を詰めて作ります。上面をヘラ状の工具でナデ整えて仕上げるため、上写真のように横方向に筋状の痕跡が残ります。

レンガの成形技法

刻印の無いレンガは、作り方が生産地を見分けるヒントになります。成形技法は「手抜き成形」と「機械成形」があり、工場によって作り方が異なります。



温室で使われたボイラー跡

新宿区内藤町遺跡の調査（現在の新宿御苑内）では植物用の温室に暖気を送るためのボイラー跡が見つかりました。火を焚く炉の内壁に耐火レンガが使われています。



耐火レンガ

高い温度に耐えられ原料をプレスして成形する。表面の印銘から「品川白煉瓦製造所」で製作されたものと推定される。

耐火レンガ

火力施設には耐火レンガと呼ばれる特殊な原料を用いたレンガを用います。明るい色調から「白レンガ」とも呼ばれます。機械で圧縮する方法（プレス成形）で作られ、上面のプレス印から作られた場所が分かります。製鉄やガラス製造、火力発電など高温を扱う炉には欠かせない素材の一つで、現在でも工業の発展を支えています。

レンガ製作地の推定

トキョー周辺のレンガ生産は、原料である粘土の採取が容易で、製品の運搬にも有利な河川周辺で行われていました。一部のレンガに残された刻印から、様々な産地のレンガが用いられていたことが分かります。一部のレンガに押された刻印は、レンガの製作地を探る手掛かりの一つです。

例えば、「上敷免製」は渋沢栄一が設立した日本煉瓦製造株式会社、「桜」の刻印は東京集治監、二つの○が連なる「輪違い」の刻印は金町製瓦会社で作られたレンガと推定されています。



刻印：「桜花（複弁）／三」

成形：手抜き成形

推定製作地：東京集治監

北区赤羽上ノ台 / 道合遺跡（北区教育委員会蔵）



刻印：「桜花（単弁）」

成形：手抜き成形

推定製作地：東京集治監

北区赤羽上ノ台 / 道合遺跡（北区教育委員会蔵）



刻印：「輪違い／イ」

成形：機械成形

推定製作地：金町製瓦会社

北区赤羽上ノ台 / 道合遺跡（北区教育委員会蔵）



刻印：「桜花（つぼみ）」

成形：

推定製作地：東京集治監

港区花房家屋敷跡遺跡（東京都教育委員会蔵）

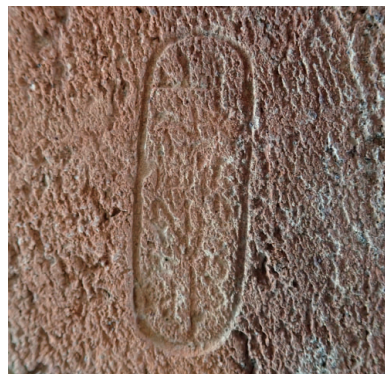


刻印：「○にサ」

成形：手抜き成形

推定製作地：齊藤煉瓦

台東区元浅草遺跡（東京都教育委員会蔵）



刻印：「上敷免製」

成形：機械成形

推定製作地：日本煉瓦製造株式会社

北区赤羽上ノ台 / 道合遺跡（北区教育委員会蔵）

CHAPTER II

Disasters and Devastation:

When Calamity Struck Tokyo

Tokyo's growth has always been shaped by challenges. Time and again, the city has faced disasters—floods, earthquakes, epidemics, and the devastation of war. Yet, each time, it has found ways to recover, adapting and rebuilding with new ideas and innovations. These experiences have shaped not only the city's urban planning but also serve as valuable lessons that continue to influence our lives today.

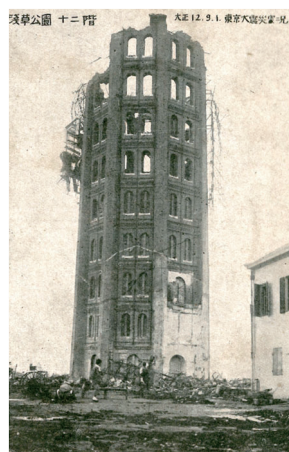


大正 12.9.1 東京大震災実況 日本橋 (個人蔵)

第II章

トキョーを襲った大禍

トキョーの発展は、常に順風満帆だった訳ではありません。洪水、地震、疫病や戦火、数多くの災禍に見舞われ、その痕跡は土の中にも残されています。記録に残らなかった災禍の様子を生々しく伝える確かな証拠です。



関東大震災 (1923)

推定震度 7
推定マグニチュード 8 前後
死者・行方不明者 10 万 5 千名以上
全壊・焼失家屋 32 万棟以上
→ 16 ページ



明治 43 年の大水害 (1910)

この頃、神田・日本橋・浅草周辺では度々大火に見舞われる

銀座大火 (1872)

焼失家屋 4,879 棟

明治東京地震 (1894)

震度 6 マグニチュード 7.0
震源 東京湾北部
建物全半壊 90 棟 (東京)
死者 24 名

吉原の大火 (1911)・洲崎の大火 (1912)

大正 6 年高潮災害 (1917)

東京湾台風による高潮
死者・行方不明者 563 名 (東京)

東京大空襲 (1945)

首都圏を対象とした一連の空襲 → 17 ~ 18 ページ

トキョーが見舞われた主な災禍 (画像はいずれも個人蔵)

Earthquakes

Tokyo has experienced multiple earthquakes throughout its history. Among them, the Great Kanto Earthquake of 1923 was particularly devastating. In addition to widespread building collapses, the disaster struck around midday when many people were cooking, causing numerous fires to break out. Strong winds further fueled the flames, turning the event into an unprecedented catastrophe that claimed the lives of over 100,000 people, including those who went missing.



震災後の住居跡 (台東区教育委員会提供)

被災した家屋 龍泉寺町遺跡

中央付近に焼け落ちた
二棟分の建物基礎を
確認できる。
左側は道と側溝。

(台東区教育委員会提供)



焼けただれたやきものの等

ガラス瓶は歪み、一部の
やきものの釉薬が
泡を吹いていることから、
大災の炎は1000℃を
超えていたと推定されます。

台東区龍泉寺町遺跡
(台東区教育委員会蔵)

関東大震災直後の廃棄層 龍泉寺町遺跡

様々な生活道具が、瓦礫と共に
廃棄されている様子が見つかった。

(台東区教育委員会提供)



関東大震災直後の廃棄層 (台東区教育委員会提供)

◎ 関東大震災

1923年(大正12)9月1日に
発生した地震では、昼時だった
ことと、折からの強風にあおら
れたことで火災が拡大し、10万
人以上の死者・行方不明者を
出す未曾有の大災害となりました。

台東区 龍泉寺町遺跡

この遺跡でも地震による
大火災の焼土層や、被災し
た生活道具を投げ捨てた穴
が見つかりました。
焼けただれた様々な生活
道具は、平和な日常が一瞬
で失われた様子を物語って
います。

◎空襲

(太平洋戦争)

大戦末期、トーチキョーは100回を超える空襲を受けたとされます。

特に、1945年(昭和20)3月の下町空襲(東京大空襲)以降、住宅地を狙った無差別攻撃が行われるようになりました。

トーチキョーの約半分が廃墟と化し、死者10万人以上、罹災住戸約70万戸にのぼると言われています。



参考
B29 戦略爆撃機

During the final stages of World War II, Tokyo endured more than 100 air raids. In particular, after the devastating firebombing of March 10, 1945, incendiary bombs were used in indiscriminate attacks targeting civilian wooden houses. As a result, nearly half of Tokyo was reduced to ruins. The total death toll is estimated to have exceeded 100,000, with 700,000 homes destroyed.

しょういだん 投下された焼夷弾

遺跡からは実際に投下された焼夷弾も見つかります。六角形の筒はM 69 焼夷弾です。着弾後に激しい炎を吹き出し、辺りを焼き尽くしました。円形の鉄塊はE 46 集束焼夷弾の弾頭部分です。E 46 内部に束ねられた38本のM 69 が一定の高度で散開し、広い範囲を大炎の渦に巻き込みました。



E46 集束焼夷弾の錘
1945 年
豊島区長崎一丁目遺跡
(豊島区教育委員会蔵)

M69 焼夷弾
1945 年
豊島区巢鴨遺跡
(豊島区教育委員会蔵)





下町空襲（1945年3月10日）後のトキオの街

空襲は、生活のすべてを破壊しました。遺跡から出土するのはガラス瓶だけではありません。第Ⅲ章で紹介している戦前の化粧道具や戦時中の茶碗・代用陶器、さらには電気スタンド台や真空管など、様々な器物の中にも空襲被災資料が含まれています。

城北大空襲

市街地への無差別攻撃は、木造家屋の多い特徴を突いて焼夷弾（ナバーム弾）が多く用いられました。

1945年4月13日深夜から翌未明の「城北大空襲」では、約300機のB29大型爆撃機が2000トン以上の焼夷弾を投下したことにより、一晩で17万戸の家屋が罹災しました。

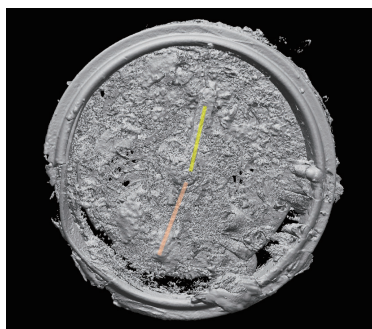
この地域では、多くの遺跡から被災した品々が出土しています。

ひしゃげたガラス瓶

高熱で変形したガラス瓶が市街地の遺跡から出土しています。頸のみがひしゃげている中央の4つの瓶の胴体は、箱に入っていた等の理由で無事だったのかもしれませんが。人々の生活の場にガラス瓶が融けるほどの熱風が吹き抜けた悲劇を出土品は記憶しています。



城北大空襲被災資料
1945年
豊島区巣鴨遺跡
（豊島区教育委員会蔵）



CT スキャン画像

止まった時計

この金属の塊は置時計の時計部分です。CTスキャンで確認したところ、盤面に針が残っていることが分かりました。

上下不明のため正確な時刻は不明ですが、11時35分あるいは12時40分頃を指している可能性があり、いずれにせよ空襲の時間帯と合致します。



置時計（時計部分）
1945年
豊島区長崎一丁目遺跡
（豊島区教育委員会蔵）

CHAPTER III

Life in Modern Tokyo: New Materials, New Ways

The wave of modernization that accelerated in the late 19th century with the Meiji Restoration transformed not only the cityscape but also the way people lived. However, they did not merely adopt Western culture. Instead, they actively integrated new styles and technologies with age-old traditions, shaping a way of life that blended the old and the new.



モガ（モダンガール）
1920年代に現れた
モダンな装いの女子。

第Ⅲ章

トイキョウ

暮らし

近代化の波は、街の姿だけでなく、そこで暮らす多くの人々の暮らしぶりも変貌させていきました。とはいえ、西欧の新文化をただ受け入れた訳ではありません。古い伝統に新しい様式・技術を融合させながら、新たな生活様式を作り上げていったのです。

◎暮らしの器

普段使いの器も時代の変化と連動していました。周辺の村々では近世からの伝統的な形が好まれましたが、都会の人々は、新しい形をいち早く取り入れました。これらは幾たびの変遷を経て、現代に繋がる食器文化を醸成していきます。

新しい時代の器

近代に入った普段使いの器の最も大きな変化は、食器の主体が漆器から磁器に移ったことでしょう。特にトイキョウの街では、それまで無かった浅く平たい形の飯碗が流行します。磁器主体の食器文化が全国的に広まると、トイキョーと周辺で異なっていた飯碗の形も共通化していきます。



都市の飯碗（右）と村落の飯碗（中央・左）

都市の飯碗は、内面が白無地で浅く平たい器形であるのに対し、村落部で出土する飯碗は、近世期の様相が色濃く残っており、内面にも染付文様を配し、丸形をしています。

家庭の外での食事

トーキョーでは、学校、工場や軍隊など、家庭の外で食事をする機会も増えていきました。そのような場所では、独特な意匠をもつ集団用の食器が生まれました。赤羽にあった陸軍の工場では、内部の食堂で用いられた食器・食券などが出土しています。



陸軍赤羽被服廠で使われた集団食器と食券
「被購食堂」銘

陸軍被服工廠の食堂で使用されていた食器類。

北区赤羽上ノ台 / 道合遺跡遺跡 (北区教育委員会蔵)

陶製便器

近世末頃に登場した陶器製の便器は、明治以降、衛生観念の広まりにつれて普及を始めます。耐久性が高く、清掃も容易なため、都市部では、一般住宅でも屋内にトイレを設置するようになっていきます。大正に入ると、清潔感があり、汚れに気づきやすい無地の便器が増えていくことになります。



染付朝顔形小便器・角形大便器

新宿区納戸町遺跡出土 (東京都教育委員会蔵)

◎西洋文化の 浸透と新素材

近代化による工業の発展に伴ってガラス製品や合成樹脂が普及し、当時の人々の暮らしを一気に多彩なものとなりました。様々な商品容器をみると、現在まで続くロングセラーが、数多く産声を上げていたこともわかります。

The influence of Western culture has significantly diversified Japan's material culture, including accessories, cosmetics, and stationery, beyond tableware alone. The widespread availability of various industrial products has introduced new materials, such as glass and resins, transforming everyday life. Many long-selling products that continue to thrive today were born during this period of change.

◎ガラス製品の国内普及

明治政府は早くから洋風建築用の板ガラス等の国産化を目指し、西洋の技術導入を試みますが、その経営は長続きしませんでした。しかし、その過程で後の中核的な技術者が成長していき、明治中期以降に国内のガラス需要が高まってくると、産業としても体裁を整えていきました。出土するガラス製品も近代後期以降に急速に増加する傾向が認められます。



洋風建築の例

上：絵葉書に描かれた東京駅駅舎（個人蔵）
下：帝國図書館（現：国際子ども図書館）

洋風建築には窓に用いる板ガラスが沢山必要ですが、全てを輸入に頼ることは当時の財政的にも厳しいものでした。1873年（明治6）に太政大臣の三條実美は板ガラス製造工場の「興業社」を設立しますが、失敗。その後工部省が引き取り「官営品川硝子製造所」となりますが、再び上手くいかず、民間に払い下げられました。その後も幾度の失敗が続きますが、1902年（明治35）にようやく板ガラスの商品化に成功します。



歯ブラシ・髪飾り

20世紀前半頃

近世以前は動物の骨や角、木や竹などの自然の素材で作られていた製品も、合成樹脂の普及に伴って新たな素材を用いた製品が登場するようになります。

髪飾り：港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）

歯ブラシ：豊島区長崎一丁目遺跡（豊島区教育委員会蔵）

明治時代の中頃に、イギリスからセルロイドが輸入され、ほどなくして国内での製造がはじまります。原料の樟脳を統治下にあった台湾等から調達できたこともあって、盛んに利用されるようになりました。

その後もベークライトなど様々な合成樹脂が登場し、近代後期には多様な樹脂製品が生活の中に浸透していきま

◎合成樹脂の登場



電気スタンドの台・真空管

20世紀第二四半期頃

電波の増幅、検波など、無線技術を実現した電気部品。大正14年(1925)開始のラジオ放送や、これに先立って始まったアマチュア無線などによって日本でも使用が始まった。本例は、オランダのフィリップス社製で、上部が太くなるナス型は1930年代頃まで良く用いられた形です。

豊島区長崎一丁目遺跡（豊島区教育委員会蔵）

1887年(明治20)、トーキョーの一部市域へ給電が始まります。1911年(明治44)には、東京市電気局が東京鉄道株式会社から経営を引き継ぎ、広く給電を開始しました。

火災のリスクが低く、煙や匂いも出ない新たな光は、トーキョーの夜を明るく照らしだすようになりました。

◎電力網の整備と電気器具



万年筆・インク壺・スポイト

和紙と墨に用紙とインクがかわり、出土品の中にもインク瓶や万年筆などが登場します。

万年筆・スポイト：港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）

インク壺：北区赤羽上ノ台/道合遺跡（北区教育委員会蔵）

新たな時代の到来は、身近な暮らしの道具たちも大きく変貌させていきました。現代の私たちの生活ぶりにより近づいて行ったことが分かります。

◎変貌する生活

土の中のトーキョー 商品銘鑑

出土品の商品容器には商品名や製造会社の銘が刻まれているものがあります。
中には現在まで続いている商品も。みなさん御存知のものはありますか？

※縮尺不同

瓶（飲料・調味料）



調味料
「西洋御料理」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



ヨーグルト
「カルピス / ヨーグルト」
長崎一丁目周辺遺跡
豊島区教育委員会



ワイン
「赤玉ポートワイン」
長崎一丁目周辺遺跡
豊島区都教育委員会



調味料
「TRADE MARK
KIKKOMAN / NODA
SHOYU CO.Ltd」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



調味料
底面「Q・P」
キューピー？
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



牛乳
表「永勝軒」
裏「全乳五勺」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会

文房具・玩具



磁器製 軍艦模型
底面「グリコ」
長崎一丁目周辺遺跡
豊島区教育委員会



インク瓶
表「ATHENA INK」
底面「○に M」
汐留遺跡
東京都教育委員会



インク瓶
「SHINOZAKI' S / TOKYO /
CHAMPION INK」
汐留遺跡
東京都教育委員会

瓶 (化粧品・薬)



整髪料？
「菊クリーム / 佐古製」
汐留遺跡
東京都教育委員会



化粧水
表「ホーカー液」
裏「堀越」
汐留遺跡
東京都教育委員会



化粧水
「美顔水」
汐留遺跡
東京都教育委員会



化粧水
側面「ヘチマコロン」
汐留遺跡
東京都教育委員会



処方薬瓶？
「一粒丸 / 東京市章 /
東京市電氣局共済組合」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



処方薬瓶
「陸軍被服本廠診療所」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



処方薬瓶
「陸軍被服本廠」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



歯磨き粉
「ライオン歯磨」
長崎一丁目周辺遺跡
豊島区教育委員会



整腸薬
表「赤十字印安川コロダイン」
裏「東京安川晃榮堂」
汐留遺跡
東京都教育委員会



整腸薬
表「健脳丸」 裏「丹平商會」
底面「丹平」
汐留遺跡
東京都教育委員会



整腸薬
「クレオソート丸」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



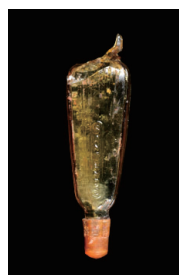
整腸薬
「Wakamoto」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



目薬瓶
表「雲切目薬」
裏「善光寺霊薬」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



目薬瓶
表「大學目薬」
裏「参天堂薬房」
汐留遺跡
東京都教育委員会



目薬瓶
「SANTENDO」
道合遺跡 / 赤羽上ノ台遺跡
北区教育委員会



皮膚薬
表「全治水」
裏「尾澤製」
汐留遺跡
東京都教育委員会

◎宮家の器

天皇の東遷にもなつて、多くの宮家もトーキョーに移住しました。洋装など最新の文化を先んじて取り入れた人々でしたが、近世から続く伝統も大切に守り続けていたようです。

磁器十六葉八重表菊紋
唐草文染付皿

港区紀州和歌山藩屋敷跡第3遺跡
(東京都教育委員会蔵)

The Lives of the Imperial Families

With the Emperor's relocation to Tokyo, many members of the imperial branch families (Miyake) also moved to the new capital. These imperial relatives were often pioneers in adopting Western clothing and other contemporary cultural elements. However, they also strongly preserved the traditional cultural practices that had continued since the Edo period.

赤坂御用地内の出土品に含まれていた“禁裏様式”と呼ばれる器は、薄く丁寧な作りで、鳳凰などの独特な吉祥文が淡い色調の呉須で描かれた染付磁器です。これらは、江戸時代から宮中に伝わるもので、一般の遺跡からはほとんど見つかることはありません。特に“十六葉八重表菊”紋が描かれた皿は、天皇家で使用されたものと考えられます。

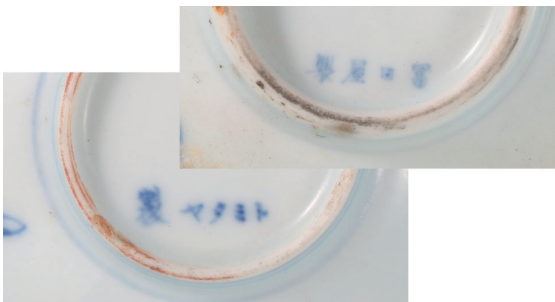


磁器禁裏様式和食器
一部にトミタヤ銘

20世紀第2四半期

おそらく有田産(佐賀)

港区紀州和歌山藩屋敷跡第3遺跡
(東京都教育委員会蔵)



一部の器に記された“富田屋”・“トミタヤ”は、江戸時代から宮中の御用を勤める商家「櫻井商店」の屋号で、明治初期に京都から東京に移転しました。これらの食器は、大正時代以降に宮家からの注文で誂えられたものと考えられます。

港区 紀伊和歌山藩徳川家屋敷跡第3遺跡

現在、「仙洞御所」や「迎賓館」がある「赤坂御用地」内の発掘調査では、戦後間もない頃に廃棄された地下室が検出されました。戦前の宮内省に関連する施設の一部と考えられます。



In politics and diplomacy, the introduction of Western culture began early, including the adoption of meat-based dishes at social gatherings. French-style tableware for formal dining has been excavated from archaeological sites dating back to this period, though it is relatively rare. However, rather than fully adopting Western dining practices, there was a tendency to adapt Western dishes to fit traditional Japanese meal customs.

These adaptations allowed people to continue using chopsticks and Japanese tableware, and as a result, Western tableware took a long time to gain widespread popularity.

◎洋食器の普及

政治・外交の世界では、肉食の導入など、西欧食文化の導入が早い段階から進んでいました。わずかですが、フランス式の正餐食器も出土しています。

しかし、一般には和食の中に取り込まれる形も多く、洋食器は、家庭にはあまり広まりませんでした。



カップ&ソーサー
20世紀第2四半期前半
港区旗本花房家屋敷跡遺跡
(東京都教育委員会蔵)

大正時代になると、洋食器の生産・輸出が盛んになる一方、国内にも紅茶や珈琲が広まり、出土品にカップ&ソーサーなどが散見されるようになります。



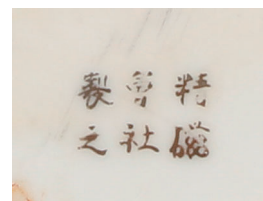
陸軍練兵場から出土したナイフ
近代の徴兵制は、米飯と共に
洋食文化の普及にも一役買いました。

ステンレス製ナイフ
「SEKI H.K.K.」銘
関刃物株式会社(岐阜)
で製作されたものと推定
される。1919年(大正8)
操業の会社で軍用ナイフ
も手掛けていた
新宿区霞ヶ丘町遺跡

磁器色絵長大皿・パン皿
精磁会社銘(有田/佐賀)
19世紀第4四半期後半
新宿区市谷薬王寺町遺跡
(東京都教育委員会蔵)



明治中期頃の正餐用洋食器は、
当時の外国人が好んだこともあり、
和文様のものが多く認められます。



「精磁會社」裏銘
精磁会社は、明治中期に
宮中晩さん会や鹿鳴館で
使用する食器を手掛ける
ために設立された会社で
したが、採算度外視の
経営がたたリ、わずか
十数年ほどで解散して
しまいました。

◎御雇い外国人の暮らし

最新の西欧技術を取り入れるため、近代前期のト
キョーには多くの外国人技術者が招かれていました。

遠い極東の地で望郷の念を抱いたのでしょうか。

彼らのいた場所からは、

異国の生活文化の薫りが漂います。

祖国を嗜む

陶器製のビール瓶や炭酸水瓶にジャムの瓶。ガラス製
の特徴的な形をした炭酸水瓶。いずれも舶来品です。
ビールなどは日本でも作られるようになっていました
がやはり母国の味が恋しかったのでしょうか。
英国製のクレイパイプ（喫煙具）も出土しています。

Life of the 'Oyatoi Gaikokujin' (Foreign Experts)

During Japan's rapid modernization in the late 19th and early 20th centuries, many foreign experts were invited to Tokyo to help implement the latest Western technologies.

Did they feel homesick in this distant eastern land, so different from their own? Archaeological findings from their living quarters still evoke the distinctive Western atmosphere that once characterized these spaces in early modern Tokyo.



お雇い外国人の居住地から出土した品々

陶器製のビールボトル、現在のドイツ国内で造られた鉱泉水瓶、パン皿やボウル、密封容器（ジャムボトル？）など、西欧で作られた焼物の他、ガラス製のタンブラーやリキュールグラスなど当時の日本人にはまだ馴染みのない品々が出土しています。



ガラス瓶（炭酸水瓶）

表面に「AERATED WATERS」の銘文があります。主に英国で用いられる「炭酸水」の表記です。当時はコルクで栓をしていました。コルクが乾燥し、ガスが抜けてしまうため、常に中の液が触れるように「立たない」形状をしています。

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）



クレイパイプ「DAVIDSON」銘

クレイパイプは主にヨーロッパで用いられた焼物の喫煙具。白色の陶土を型で成形して作られました。このクレイパイプは銘からイギリスのグラスゴーで19世紀後半頃に製作されたものと推定されます。

港区汐留遺跡（東京都教育委員会蔵）

Life in wartime

Following its victories in the First Sino-Japanese War and the Russo-Japanese War, Japan eventually found itself embroiled in additional conflicts, notably the Second Sino-Japanese War and military actions in the Pacific, which led to confrontation with Western powers. With few natural resources at its disposal, Japan faced significant challenges during this period. As Japan's involvement in World War II intensified, the population faced increasing restrictions on daily life, largely due to the strain of war efforts. Evidence of these challenging wartime conditions can be seen in everyday household items.

◎戦時下の暮らし

日清・日露の両戦争に勝利した日本は、やがて対中国、そして欧米列強との戦争に突き進んでいきます。長引く戦争の中、資源に乏しい日本では人々の暮らしにも大きな制約が加わるようになります。暮らしの道具の中にも、その暗い影を見出すことができます。



ぼうえいしょく 防衛食容器 (左：容器 右：蓋)

料理入れて加熱後に蓋をして冷ますと、内部の圧力が下がり、密封される仕組みです。開封時は蓋中央に釘で孔をあけると外から空気が入り蓋が開きます。空襲などに備え、緊急時に持ち出せるよう各家庭で準備されました。

容器：豊島区染井遺跡（豊島区教育委員会蔵）
蓋：台東区上野忍岡遺跡群（東京都教育委員会蔵）

物資の不足と代用陶磁器
日中戦争が激化した1938年（昭和13）、国家総動員法に基づき戦略物資の民需品に対する使用を制限しました。金属の使用が制限される中で、様々な道具や容器が陶磁器で代用されるようになります。



生産者標示記号
やがて、規制の波は陶磁器にも及ぶようになります。太平洋戦争突入直前の1941年（昭和16）各地の陶業組合は、生産管理などのために生産者ごとの識別番号を付与しました。「岐」（岐阜）、「肥」（肥前）など、窯業地を示す漢字と業者ごとの数字で表されます。



かおうたん まんねんたん
大王炭（万年炭）

豆炭や木炭などの燃料節約のための道具。

炭と一緒に七輪に入れて火をつけると大王炭も熱せられ、少ない燃料で火力を保つことができます。

繰り返し使えるので、万年炭とも呼ばれました。

Epilogue

Tokyo's Past and Future

Tokyo, as you've explored in this exhibition, has continued to change over time. Following the postwar period of rapid economic growth, it has developed into the global metropolis that captures the world's attention today. However, it is worth remembering that Tokyo stands on a foundation laid by those before us, who adapted to changes and overcame challenges. Today, the city continues to evolve, carrying forward the lessons of the past as it moves toward the future.



東京の街を走る都営バス

The transportation network, which began in Tokyo with trains and buses, now covers the entire city. To improve urban functions, the city continues to evolve with changes to routes, underground and elevated lines, and other modifications.

交通機関

トーキョーから始まった電車やバスによる交通網は、今や都内を網羅しています。そして、都市機能の向上のために、路線の変更や地下化・高架化など、今も形を変え続けています。



都道の拡幅事業に伴う発掘調査（北区十条地区）

公共事業

道路の拡幅や延伸、老朽化した学校などの公共施設の整備や改築なども計画的におこなわれています。安全と利便性のために、街は姿を変え続けているのです。

Road widening, extensions, and the renovation or reconstruction of aging public facilities are also being carried out in a planned manner. For the sake of safety and convenience, the city is constantly changing its appearance.



例えば、展示で扱った元浅草遺跡の発掘調査も、都立白鷗高等学校の校舎の建て替えに伴うものだったんだよ。

エピローグ

今

回顧いただいた近代トーキョーは、後の高度経済成長期など様々なステージを経ながら、世界の耳目を集める先進都市「東京」に成長しました。しかし、その足下には、様々な変化や課題に対応し、築き上げた先人たちの礎があることを忘れてはいけません。今日の東京は、その教えを胸に、未来のＴＯＫＹＯに向けて歩み続けているのです。

東京強靱化プロジェクト

東京都は、先人たちの努力の結晶である安全・安心な都市を、さらにレベルアップして未来に引き継ぐため、「TOKYO強靱化プロジェクト」を立ち上げ、100年先も安心して暮らせるまちづくりを目指しています。

To further enhance the safe and secure city built by the efforts of those who came before us, Tokyo has launched the "TOKYO Resilience Project." This project aims to ensure a city where people can live comfortably 100 years into the future.



例えば：「地震への備え」

近年、東日本大震災や能登半島地震など甚大な被害をもたらす大地震が相次いで発生しています。2023年(令和5)に関東大震災から100年の節目を迎えた東京においても、今後30年以内に南関東地域でM7クラスの地震が発生し、都心南部直下地震(都内震度7)では死者6千人、建物被害約19万4千棟の被害が出る想定されており、地震への備えは喫緊の課題となっています。

TOKYO強靱化プロジェクトでは、大地震があっても「倒れない・燃えない・助かる」まちをつくることを目標に、具体的な工期を定めながら以下のような対策を講じています。

- (1) 特定緊急輸送道路の閉塞要因の解消100%
- (2) 広域防災拠点へのアクセスルートの確保
- (3) 木造住宅密集地域の不燃化70%以上
- (4) 耐震性を満たす住宅の割合100%
- (5) 混雑する避難所をなくす
- (6) 島しょにおける震災時の物資等輸送拠点の確保

想定されている

火

に備えて、

街の

礎

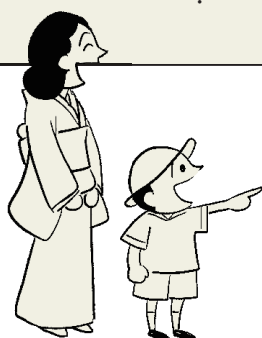
を強化することで、

我々の

暮らし

が守られ、発展していく...

現在志されているまちづくりのあり方が、近代から引き継がれたものであることが、遺跡の調査成果からもよく分かりましたね。



Eighty years after World War II, Tokyo is continuing its development toward the future. Amid these ongoing efforts, new traces of old Tokyo will continue to emerge from beneath the ground tomorrow. The Tokyo Metropolitan Archaeological Center is committed to ensuring that this valuable history is accurately passed down to future generations through its excavation work, contributing to the growth of future Tokyo.

遺跡より見たる
帝都発展の歩み！

◎終わりに

戦後八十年、東京は未来に向けて更なる発展を続けています。こうした営みの中で、明日もまた、新たなトーキョーの足跡が地中から姿を現すことでしょう。東京都埋蔵文化財センターも、未来のTOKYOの糧となる、この貴重な歴史が正しく後世に伝わるよう、発掘調査を通じて貢献していきます。

Eighty years after World War II, Tokyo is continuing its development toward the future. Amid these ongoing efforts, new traces of old Tokyo will continue to emerge from beneath the ground tomorrow. The Tokyo Metropolitan Archaeological Center is committed to ensuring that this valuable history is accurately passed down to future generations through its excavation work, contributing to the growth of future Tokyo.



令和7年度企画展示

「土の中のトーキョー—近代考古学事始」 解説冊子
編集・発行東京都埋蔵文化財センター

東京府庁

